

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3671400236		
法人名	有限会社 おりの		
事業所名	グループホームほかほか		
所在地	徳島県海部郡海陽町久保字板取12-1		
自己評価作成日	平成29年1月11日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成29年3月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホーム周辺は、海、山に囲まれ、ホーム前は水際公園もあり、落ち着いた雰囲気の中で生活が送れる環境が整っております。医療面に関しても、協力医療機関との連携も密に図れており、グループホームではありますが、看取りまでの支援も行っております。近年、入居者様の高齢化に伴い、医療面での管理が必要な方々増えてきておりますが、協力医療機関と連携を図り、介護職で看護師が4名、介護福祉士が13名そのほか4名という専門者で、住みなれた地域で最期まで生活が送れるようサポートし、入居者様が一人ひとりがよりよい生活が送れるよう職員一丸で支援を行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、近隣に海岸や公園のある自然豊かな環境に位置している。同一法人の運営する併設の他サービス事業所とともに、高齢者複合施設の一つを担っている。法人全体で地域交流を盛んに行っており、多くのボランティアや医学生の実習を受け入れている。季節のお祭りなども催しており、利用者や家族、地域住民との一体感がある。事業所では、利用者や家族の声を大切にしており、医療面で多くのサポートを必要とする利用者の受け入れも積極的に行うなど、全職員が一丸となって利用者支援に取り組むよう努めている。さらに、協力医療機関と密に連携を図り、看護職員を中心とした医療面・看護面のサポート体制を構築している。重度化や終末期ケアに対しても積極的な取り組みや対応を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ぼかぼかAユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念として「温もりとやすらぎのあるアットホームな生活を支援します。」があり毎朝朝礼時に職員で唱和して共有し、入居者様に「ここで過ごせて良かった」と想って頂けるよう、日々支援を行っております。	事業所では、開設当初に掲げた理念を大切に、日頃の実践に努めている。毎朝の申し送り時に全職員で理念を唱和し共有している。また、新しく採用した職員向けの研修会を行っており、その際に理念を伝え共有するようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアの方々や、保育園児達、地域医療研修の医学部生の方々が訪問して下さい、入居者様との交流を図っております。	年数回、地域のボランティアや地元の保育所の子どもの来訪がある。また、月1回、地域医療を学ぶ医学生の来訪もある。職員は地域の避難場所や神社の清掃に参加している。近隣住民から野菜の差し入れがあり、日常的に交流を図るよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センター、また居宅介護支援事業所等からの相談もあります。又入居希望、そうでない相談も電話等で頂き、これまで培った認知症状の理解、支援方法の相談をしております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね年6回の開催を行っています。町、社協、協力医療機関、ご家族の方々に参加して頂き、現状の報告と、今後の取り組みの説明を行い、様々な意見を頂き、報告書にまとめ、職員に周知し、支援向上に活かしております。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。会議では、事業所の報告や予定、日頃の利用者支援の状況などについて話し合っている。出席者に日頃の支援内容を十分に理解してもらうため、行事と同じ日に開催するなどの工夫を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町に提出物がある時は、なるべく郵送せず、直接窓口へ届けています。わからない事があれば電話での連携も、密に行っています。運営推進会議に毎回担当の方が出席して下さい連携を図っております。	日頃から職員は、町担当者や福祉関係者と密に連携を図るよう心がけている。また、事業所の報告書等は、直接、職員が窓口へ持参するようにしている。さらに、職員は町内の福祉連携会議に出席し、多職種間の連携も深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の事項は玄関先に啓次しております。身体拘束を行わないようケアに取り組んでいます。朝礼時等身体拘束にあたるかどうか話し合い、拘束がないよう心がけて支援しています。	事業所は、日頃から身体拘束をしないケアに努めている。法人本部の開催する、身体拘束をしないケアの勉強会に参加し、身体拘束の内容や弊害等の理解・共有に努めている。玄関は夜間のみ施錠するようにしており、普段は見守りを中心とした支援に努めることで、利用者の自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	朝礼時や職員会議時等に、日々の処遇について考えさせる機会を設けおり、また、管理者は職員から情報を聞き取り、虐待がないよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ぼかぼかAユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、GHIには日常生活自立支援事業、成年後見人の入居者はおられないが、併設するサービス付き高齢者向け住宅の入居者には、対象者がいるので、担当者と話しをさせて頂いたり、司法書士の先生から指導を受けています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が詳細に説明しています。介護保険改定時や介護報酬改定時などは、文書を送付、訪問にて説明を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様からは、日頃の生活で、要望や希望を聞いて、支援に反映し、ご家族からは、運営推進会議等で受ける機会を設けており、また玄関先にも意見箱を設けております。	職員は、日頃の支援を通じて、利用者の意見や要望を聞くようにしている。家族の来訪時には積極的に話しかけ、意見や要望を表出しやすい関係づくりに努めている。また、ホームページやブログを活用し、事業所の取り組み等を発信するようにしている。玄関に意見箱を設置しており、出された意見や要望は検討して運営面に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が職員と、年に数回個別で対話を行い、要望や改善点等は、朝礼時に職員から意見があり、出来る限り、反映が出来るよう心がけております。	管理者は、朝の申し送り時に職員から意見や提案を聞く機会を設けている。年数回、管理者と職員との個人面談を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業務時間に関しては、時間内に終わるよう管理しており、業務時間を越えるようであれば、業務を改善出来る体勢を整えている。また、資格を取ることにより、給与に反映されるようにし、向上心も持つよう努めております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部で研修を受け、学んだ事を内部研修として、講師になり学んだ事の発表を行っている。また、協力医療機関に研修来ているPT研修生による研修も行っており、他職種の研修も行い、介護、リハ医療等の知識を得る機会を設けております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協力医療機関Drや当法人社長の交友関係にて、他県、他市町村の同業者とのネットワーク、つながりがあり、職員同士が訪問し合い、意見交換を行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ぼかぼかAユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に何度か訪問し、入居者、家族の方に安心して入居出来るよう、アセスメントを行い、不安に思われている事を少しでも緩和し、スムーズに入居できるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に何度か訪問し、入居者、家族の方に安心して入居出来るよう、アセスメントを行い、不安に思われている事を少しでも緩和し、スムーズに入居できるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今までの生活を重視して、本人、家族、ケアマネ、を含め、現状を見極め、安易に入居をすすめないよう対応して、現状に必要な介護サービスを提供できるよう支援しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に人生の先輩であるとの意識を大切にしながら、入居者様との近い関係性を保てるよう、職員に周知して、共に生活が送れるよう支援しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	最低でも月に1回は、窓口支払いの為、ホームへ来て頂いており、現状の報告を行っています。また遠方の家族さんには、居室担当者が連絡を取り近況報告や、足りない物の購入の連絡等を行い、共に支えあう支援を行っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	隣接しているデイサービスや、サ高住に、昔からの知人等おられる方が何名かいるので、互いに行き行きして、会話を楽しまれる姿がみられます。面会に関しても、出来るかぎり行えるよう対応しています。	事業所では、利用者一人ひとりの馴染みの理美容院や馴染みの場所への外出を支援している。家族の協力を得て、人や場との関係を継続することができるよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は出来る限り、リビングにて皆さんで過ごせる環境を整えて、コミュニケーションが図りやすいよう支援しております。また、レク等で皆さんで壁画を作成しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ぼかぼかAユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他体調不良で入院された際は、週2回程度は病院へ様子を見に行き、病院、ご家族と密に連携を図り本人さんの状態把握も行っております。また他の施設へ移られた場合は、何度か訪問し、安定した生活が送れているか把握を行っている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	食事制限等Drから制限等が出ている場合は、不可能な面もみられますが、出来る限りは、入居者さんの希望、要望が叶えられるよう支援しています。	日頃から職員は、利用者との関わりを通じて、一人ひとりの思いや希望を把握するよう努めている。利用者の希望に応じて、買い物などの支援を行っている。職員は、できるだけ利用者の意向にそった本人本意の支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、ご家族の方に、用紙に記入して頂いたり、聞き取りを行い、情報を収集しております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態を把握し、出来る限り残存機能を活かせるよう支援して、ADL面、QOLの向上を図れるよう支援しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	朝礼時に気になった事を上げて、カンファレンスを行い、現状で必要な支援を職員で話し合っています。ご家族の方は参加は難しいですが、面会時や支払い時に意見を頂いております。	事業所では、職員が日頃の利用者支援を通じて気づいたことなどを介護計画に反映させている。家族の来訪時や支払い時等に本人の体調や生活状況について話し、意見を聞いている。利用者の心身状況の変化に合わせて介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子観察にて、少し変わった言動や変化を記録して、朝礼時に職員同士で、変化に対しての対応策を話し合い、介護計画にも活かしております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の訴え等があれば、可能な限り対応し、日々の朝の申し送り時に、職員の意見も聞き、話し合いを行い、サービス向上を図れるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ぼかぼかAユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者の方のカットを、地域の美容室の方に訪問して頂いております。また移動スパーも活用できるよう対応しております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関との連携が密に図られており、出来る限りホームでの治療を行い、入院が必要な場合は、ご家族へ連絡説明を行い、主治医より紹介状を頂き、スムーズに病院での診察、治療が行えるよう支援しています。	入居時の段階で、利用者一人ひとりのかかりつけ医を確認している。専門医の受診時には、職員が同行支援を行い、家族に結果を報告している。また、同一法人の運営する医療機関と看護職員を中心として密に医療連携を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在看護師4名が介護職として配置しており、日々の健康管理、主治医の指示等がスムーズに行えるよう支援している。また医療連携の看護師にも電話、訪問して頂き、健康管理、相談も行ってまいります。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は週2回職員が病院へ行き、状態の把握や看護師さんから情報収集を行い、主治医との連携を図り、早い時期での退院が行えるよう支援しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期については、入居時に説明を行っております。実際重度化になった際は、ご家族の意向を聞き、主治医、協力医療機関と密に連携を図り、対応についても、職員に周知し、ご家族、医療、職員で支援できる体制を整えています。	入居時の段階で、利用者や家族へ重度化した場合や終末期に関する事業所の方針を説明している。医師を中心とした支援体制を整備し、利用者の状態に応じた適切な支援ができるよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時は看護師、主治医とすぐに連絡が取れる体制を整えております。協力医療機関とも密に連携を図っており、緊急時対応は、看護師より説明を随時受けております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の総合訓練を行っております。津波非難訓練は火災避難訓練の後に、整備されている避難路を活用し、訓練を実施しました。	年2回、火災や津波を想定した避難訓練を実施している。毎年3月には、同一法人の運営する併設の他サービス事業所と合同で総合防災訓練を行っている。事業所は町から福祉避難所の指定を受けており、適切な対応ができるよう検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ぼかぼかAユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けに関しては、管理者が注意、指導を行い、研修も行っております。職員同士でも確認し合い、プライバシーを損ねないよう気をつけ、支援をしております。	年1回、法人全体で開催するプライバシーに関する研修に、事業所の職員も参加している。日頃の支援を通じて、一人ひとりの人格の尊重やプライバシーを守るよう心がけている。プライバシーを損なうことがないよう、さりげない声かけや環境づくりに配慮している。職員間で相互に確認しあっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉で意思が伝えられる方には、会話で、想い等を把握しておりますが、意思伝達が難しい場合は、表情等から想い等をくみ取り、想いを実現できるよう支援しております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	第一に入居者さんのペースを考え、そのひとにあったペースで生活が送れるよう支援しておりますが、職員が少ない時間帯は、支援が困難な場合もみられます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時等介助が必要な方は、整容を行い、その人にあつたみだしなみ、おしゃれが行えるよう支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段の調理は、一括して厨房で作っておりますが、月に何回か、手作り食事やおやつを行い、入居者さんにも手伝って頂いております。	事業所では、同一法人の運営する併設の他サービス事業所の厨房で調理したものを運び込んでいる。なお、月に1、2回は、事業所の担当職員が、利用者の好むメニューやおやつを手作りし提供している。職員は、利用者とともに食事をしている。家族や地域の方から差し入れてもらった食材も活用している。また、食材の皮剥き等の簡単な作業は、できる範囲で利用者とともに実施するようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士がいない為、主治医からの健康面かでの制限等の指示があり、看護師を中心に栄養面での管理を行い、厨房の職員さんにも伝えております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、清潔に保てるよう支援しています。また必要であれば、歯科医の訪問診察も受けれる体制を整えております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ぼかぼかAユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中に関しては出来る限り、トイレでの排泄が行えるよう支援しており、自立排泄が維持出来るよう対応しています。また一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導が行えるよう支援しています。	職員は、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握するように努めている。同一法人の運営する併設の他サービス事業所の理学療法士が排泄時の立位やリハビリについてのアドバイスをを行い、自立に向けた支援に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や適度な運動を行い、スムーズに排泄が行えるよう支援し、排便が3日以上出ていない場合は、看護師に報告し、緩下剤や浣腸等でスムーズに排便が出るよう対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	特浴の方に関しては、週2回曜日を決めて、入浴介助を行っておりますが、一般浴については、週3回を目安に入浴できるよう対応し、入る時間帯は、午後からで、曜日は決めずに、本人の入るタイミングで入浴が行えるよう対応している。	事業所では、利用者の希望に応じた入浴支援をしている。午後から1名ずつ、ゆっくりと入浴することができるよう配慮している。少なくとも週3回は入浴を促し、清潔を保持することができるようにしている。ゆず湯やしょうぶ湯も活用し、楽しく入浴することができるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者さんの状態や、体調面を考慮し、職員同士で話し合い、日中も居室等で横になる時間を作り、休息が取れるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	介護職として、看護師を配置しており、服薬等に関しては、いつでも聞ける体制は整っており、新しい薬が、主治医より処方された場合は、看護師より職員へ周知し、確認を行っております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前、事前に入居者さんの趣味や嗜好等を、ご家族の方に用紙に記入して頂き、それを元に職員で話し合い、入居後も本人さんの意欲を引き出し、張り合いのある生活が送れるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出可能な入居者さんは、ご家族と一緒に外出や外泊をされております。天候が良い日は、外の公園へ、散歩に出かけたり、中庭で過ごしたり出来るように支援しています。ボランティアを通じての外出支援は行っておりません。	日頃から、利用者と職員で近隣へ散歩やドライブに出かけている。春と秋には、お弁当を持って遠足に出かけている。季節に考慮し、計画的に外出を支援している。家族との外出や外泊も多く、家族の協力を得て実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			ぼかぼかAユニット 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の方が了承している方は、数千円程度もたれて支払う方もおられますが、大半の入居者さんが、施設の立替払いにて、購入した際は全てレシートで何にを購入し、使用したか、ご家族の方へ説明が行えるよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の方が了承している方は、携帯電話等を使用し、自ら連絡を取られている方もおられますが、ほぼ職員がご家族さんと連絡を取っています。お正月に年賀はがきを担当職員と作成し、家族、知人、友人に出しております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地よく過ごして頂けるよう、日々の清掃や配置換え、季節に応じた模様替え等を行い、季節感を感じて、落ち着いた中で生活が送れるよう環境を整えます。	共用空間は、隅々まで清掃が行き届いており、清潔な環境を保っている。また、利用者と職員で作成した季節の作品や行事の写真を掲示している。畳のスペースでは、利用者が洗濯物をたたんだり、ゆっくりとくつろいだりできるようにしている。廊下の天井に青空の壁紙を張るなどの工夫も行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースには、畳の間があり、日中でも横になりたい方は、ゆっくり休めるようになっており、また、洗濯たたみ等畳の間で手伝っていただけるよう対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り使い慣れた物、布団やタンス等を持って来て頂きたいようお願いし、入居後の生活状態の変化で、職員と話し合い、居室の配置換え等を行い、現状にあった環境を整え、落ち着いた過ごせるよう支援していきます。	居室は日当たりが良く、明るい雰囲気のある空間となっている。居室に利用者一人ひとりの使い慣れたタンスや布団、家族の写真等を持ち込んでもらっている。事業所は、利用者が暮らし慣れた部屋と同じような居心地の良い環境づくりに向けた支援を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	福祉用具等も活用し、出来る限り自立して過ごせる環境を整え、入居者さんの安全、安心第一に考え、職員同士で話し合い支援しております。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ぼかぼかBユニット 実践状況	実践状況	実践状況
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念として「温もりとやすらぎのあるアットホームな生活を支援します。」があり毎朝朝礼時に職員で唱和して共有し、入居者様に「ここで過ごせて良かった」と想って頂けるよう、日々支援を行っております。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアの方々や、保育園児達、地域医療研修の医学部生の方々が訪問して下さり、入居者様との交流を図っております。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センター、また居宅介護支援事業所等からの相談もあります。又入居希望、そうでない相談も電話等で頂き、これまで培った認知症状の理解、支援方法の相談をしております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね年6回の開催を行っています。町、社協、協力医療機関、ご家族の方々に参加して頂き、現状の報告と、今後の取り組みの説明を行い、様々な意見を頂き、報告書にまとめ、職員に周知し、支援向上に活かしております。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町に提出物がある時は、なるべく郵送せず、直接窓口へ届けています。わからない事があれば電話での連携も、密に行っています。運営推進会議に毎回担当の方が出席して下さり連携を図っております。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の事項は玄関先に啓次しており身体拘束を行わないようケアに取り組んでいます。朝礼時等身体拘束にあたるかどうか話し合い、拘束がないよう心がけて支援しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	朝礼時や職員会議時等に、日々の処遇について考えさせる機会を設けおり、また、管理者は職員から情報を聞き取り、虐待がないよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ぼかぼかBユニット 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、GHIには日常生活自立支援事業、成年後見人の入居者はおられないが、併設するサービス付き高齢者向け住宅の入居者には、対象者がいるので、担当者と話しをさせて頂いたり、司法書士の先生から指導を受けています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が詳細に説明しています。介護保険改定時や介護報酬改定時などは、文書を送付、訪問にて説明を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様からは、日頃の生活で、要望や希望を聞いて、支援に反映し、ご家族からは、運営推進会議等で受ける機会を設けており、また玄関先にも意見箱を設けております。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が職員と、年に数回個別で対話を行い、要望や改善点等は、朝礼時に職員から意見があり、出来る限り、反映が出来るよう心がけております。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業務時間に関しては、時間内に終わるよう管理しており、業務時間を越えるようであれば、業務を改善出来る体勢を整えている。また、資格を取ることにより、給与に反映されるようにし、向上心も持てるよう努めております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部で研修を受け、学んだ事を内部研修として、講師になり学んだ事の発表を行っている。また、協力医療機関に研修来ているPT研修生による研修も行っており、他職種の研修も行い、介護、リハ医療等の知識を得る機会を設けております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協力医療機関Drや当法人社長の交友関係にて、他県、他市町村の同業者とのネットワーク、つながりがあり、職員同士が訪問し合い、意見交換を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ぽかぽかBユニット 実践状況	実践状況	実践状況
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に何度か訪問し、入居者、家族の方に安心して入居出来るよう、アセスメントを行い、不安に思われている事を少しでも緩和し、スムーズに入居できるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に何度か訪問し、入居者、家族の方に安心して入居出来るよう、アセスメントを行い、不安に思われている事を少しでも緩和し、スムーズに入居できるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今までの生活を重視して、本人、家族、ケアマネ、を含め、現状を見極め、安易に入居をすすめないよう対応して、現状に必要な介護サービスを提供できるよう支援しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に人生の先輩であるとの意識を大切にしながら、入居者様との近い関係性を保てるよう、職員に周知して、共に生活が送れるよう支援しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	最低でも月に1回は、窓口支払いの為、ホームへ来て頂いており、現状の報告を行っています。また遠方の家族さんには、居室担当者が連絡を取り近況報告や、足りない物の購入の連絡等を行い、共に支えあう支援を行っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	隣接しているデイサービスや、サ高住に、昔からの知人等おられる方が何名かいるので、互いに行き行きして、会話を楽しまれる姿がみられます。面会に関しても、出来るかぎり行えるよう対応しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は出来る限り、リビングにて皆さんで過ごせる環境を整えて、コミュニケーションが図りやすいよう支援しております。また、レク等で皆さんで壁画を作成しております。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ぼかぼかBユニット 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他体調不良で入院された際は、週2回程度は病院へ様子を見に行き、病院、ご家族と密に連携を図り本人さんの状態把握も行っております。また他の施設へ移られた場合は、何度か訪問し、安定した生活が送れているか把握を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	食事制限等Drから制限等が出ている場合は、不可能な面もみられますが、出来る限りは、入居者さんの希望、要望が叶えられるよう支援しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、ご家族の方に、用紙に記入して頂いたり、聞き取りを行い、情報を収集しております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態を把握し、出来る限り残存機能を活かせるよう支援して、ADL面、QOLの向上が図れるよう支援しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	朝礼時に気になった事を上げて、カンファレンスを行い、現状で必要な支援を職員で話し合っています。ご家族の方は参加は難しいですが、面会時や支払い時に意見を頂いております。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子観察にて、少し変わった言動や変化を記録して、朝礼時に職員同士で、変化に対する対応策を話し合い、介護計画にも活かしております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の訴え等があれば、可能な限り対応し、日々の朝の申し送り時に、職員の意見も聞き、話し合いを行い、サービス向上を図れるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ぼかぼかBユニット 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者の方のカットを、地域の美容室の方に訪問して頂いております。また移動スパーも活用できるよう対応しております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関との連携が密に図られており、出来る限りホームでの治療を行い、入院が必要な場合は、ご家族へ連絡説明を行い、主治医より紹介状を頂き、スムーズに病院での診察、治療が行えるよう支援しています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在看護師4名が介護職として配置しており、日々の健康管理、主治医の指示等がスムーズに行えるよう支援している。また医療連携の看護師にも電話、訪問して頂き、健康管理、相談も行っております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は週2回職員が病院へ行き、状態の把握や看護師さんから情報収集を行い、主治医との連携を図り、早い時期での退院が行えるよう支援しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期については、入居時に説明を行っております。実際重度化になった際は、ご家族の意向を聞き、主治医、協力医療機関と密に連携を図り、対応についても、職員に周知し、ご家族、医療、職員で支援できる体制を整えています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時は看護師、主治医とすぐに連絡が取れる体制を整えております、協力医療機関とも密に連携を図っており、緊急時対応は、看護師より説明を随時受けております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の総合訓練を行っております。津波非難訓練は火災避難訓練の後に、整備されている避難路を活用し、訓練を実施しました。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ぼかぼかBユニット 実践状況	実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けに関しては、管理者が注意、指導を行い、研修も行っております。職員同士でも確認し合い、プライバシーを損ねないよう気をつけ、支援しております。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉で意思が伝えられる方には、会話で、思い等を把握しておりますが、意思伝達が難しい場合は、表情等から思い等をくみ取り、思いを実現できるよう支援しております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	第一に入居者さんのペースを考え、そのひとにあったペースで生活が送れるよう支援しておりますが、職員が少ない時間帯は、支援が困難な場合もみられます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時等介助が必要な方は、整容を行い、その人にあつたみだしなみ、おしゃれが行えるよう支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段の調理は、一括して厨房で作っておりますが、月に何回か、手作り食事やおやつを行い、入居者さんにも手伝って頂いております。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士がいない為、主治医からの健康面かでの制限等の指示があり、看護師を中心に栄養面での管理を行い、厨房の職員さんにも伝えております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、清潔に保てるよう支援しています。また必要であれば、歯科医の訪問診察も受けれる体制を整えております。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ぼかぼかBユニット 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中に関しては出来る限り、トイレでの排泄が行えるよう支援しており、自立排泄が維持出来るよう対応しています。また一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導が行えるよう支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や適度な運動を行い、スムーズに排泄が行えるよう支援し、排便が3日以上出ていない場合は、看護師に報告し、緩下剤や浣腸等でスムーズに排便が出るよう対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	特浴の方に関しては、週2回曜日を決めて、入浴介助を行っておりますが、一般浴については、週3回を目安に入浴できるよう対応し、入浴時間帯は、午後からで、曜日は決めずに、本人の入浴タイミングで入浴が行えるよう対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者さんの状態や、体調面を考慮し、職員同士で話し合い、日中も居室等で横になる時間を作り、休息が取れるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	介護職として、看護師を配置しており、服薬等に関しては、いつでも聞ける体制は整っており、新しい薬が、主治医より処方された場合は、看護師より職員へ周知し、確認を行っております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前、事前に入居者さんの趣味や嗜好等を、ご家族の方に用紙に記入して頂き、それを元に職員で話し合い、入居後も本人さんの意欲を引き出し、張り合いのある生活が送れるよう支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出可能な入居者さんは、ご家族と一緒に外出や外泊をされております。天候が良い日は、外の公園へ、散歩に出かけたり、中庭で過ごしたり出来るように支援しています。ボランティアを通じての外出支援は行っていません。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			ぼかぼかBユニット 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の方が了承している方は、数千円程度もたれて支払う方もおられますが、大半の入居者さんが、施設の立替払いにて、購入した際は全てレシートで何にを購入し、使用したか、ご家族の方へ説明が行えるよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族の方が了承している方は、携帯電話等を使用し、自ら連絡を取られている方もおられますが、ほぼ職員がご家族さんと連絡を取っています。お正月に年賀はがきを担当職員と作成し、家族、知人、友人に出しております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地よく過ごして頂けるよう、日々の清掃や配置換え、季節に応じた模様替え等を行い、季節感を感じて、落ち着いた中で生活が送れるよう環境を整えます。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースには、畳の間があり、日中でも横になりたい方は、ゆっくり休めるようになっており、また、洗濯たたみ等畳の間で手伝っていただけるよう対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り使い慣れた物、布団やタンス等を持って来て頂きけるようお願いし、入居後の生活状態の変化で、職員と話し合い、居室の配置換え等を行い、現状にあった環境を整え、落ち着いた過ごせるよう支援していきます。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	福祉用具等も活用し、出来る限り自立して過ごせる環境を整え、入居者さんの安全、安心第一に考え、職員同士で話し合い支援しております。		